

森林塾通信

『伐る・出す・そして利用する』

通年コース第九・十回開催報告(間伐・集材)



ウィンチで材を寄せ、積み込む



慣れると楽しいキャタトラの運転



格好も腕前もプロで通用するかも
命真つ只中のドイツの石炭鉱山で、19世紀中頃から使われ始めたようですが、これを谷越えなどで張った「索道」も便利な集材の道具でした。当初は動力装置がなく、丸太の自重だけで走り下るす一方通行のものでしたが、その後エンジンがついて、動力伝動装置やドラム、ブレーキを備えた集材機

チェンソーが長野県の営林局に初めて導入され、伐倒や造材、集材が近代化されて1965年には現在の2・5倍にあたる5000万立米の国産材を供給してました。この年の自給率

1950年、緑の羽根募金が始まり、第1回全国植樹行事と国土緑化大会が甲府市で行われました。その時に募集された緑化標語の最優秀作は「緑の山から平和の光」でした。戦後復興のために切り出された天然林の伐採跡地に、そのころから植えられ始めたスギやヒノキ、カラマツが12〜13 齢級(60年生前後)に差しかかり、保育の時期から収穫可能な時期に入ろうとしています。間伐であっても、収穫のための皆伐

でも、伐った材は出して使いたいものですが、山の現場からトラックが入れる山土場まで材を出す、「集材」は簡単ではありません。木馬(子供の遊具でも、トロイの戦術でも、ウィルスでもありません。きうま、きんまと読みます)という人力集材が1960年ころまでありました。幅1m程度の軌道に枕木を敷いて、そり(木馬)の上に材木を乗せて引き下ろすものです。非常に危険で、しかも重労働ではありませんが、

山仕事の中では一番良い日当をもらっていたようです。そしてもちろん牛や馬の力も借りました。馬で引く「馬搬」は今でも上伊那で時々やっているという話を聞きます。保科先生のお話を聞くと、牛の方が馬力(??)があつたけど、牛はつむじを曲げると梃子でも動かなくて往生してたなあ、とのこと。のどかでエコーな方法に映るのですが、実際にやってたらこれも大変ですね。

山落としや修羅(しゅら、すら)という方法もありました。トビヤツルを使って斜面を引きずりおろすのが

太を滑り下ろした例もありました。インクラインといわれるもので、現在の伊那市長谷、戸台の谷に全長500mのインクラインが作られました。高度差250メートル、勾配30度で、最深部は53メートルだったそうです。スプラッシュ・マウンテンやFUJI YAMAもびつくりですね。

が導入され、集材能力は大幅に上がったようです。日本初の集材機は1920年に木曾の上松営林署に導入されたという記録がありますが、信州大学西駒演習林でも、標高2千数百メートルからの架線集材をしてきたと島崎先生にお聞きしたことがあります。主策の長さは3000メートルにも及んだとのことで、今でも登山道の脇に26ミリほどの径でしょうか、ワイヤの切れ端が埋もれているのを目にすることがあります。

山仕事の中では一番良い日当をもらっていたようです。そしてもちろん牛や馬の力も借りました。馬で引く「馬搬」は今でも上伊那で時々やっているという話を聞きます。保科先生のお話を聞くと、牛の方が馬力(??)があつたけど、牛はつむじを曲げると梃子でも動かなくて往生してたなあ、とのこと。のどかでエコーな方法に映るのですが、実際にやってたらこれも大変ですね。

山落としや修羅(しゅら、すら)という方法もありました。トビヤツルを使って斜面を引きずりおろすのが

太を滑り下ろした例もありました。インクラインといわれるもので、現在の伊那市長谷、戸台の谷に全長500mのインクラインが作られました。高度差250メートル、勾配30度で、最深部は53メートルだったそうです。スプラッシュ・マウンテンやFUJI YAMAもびつくりですね。

が導入され、集材能力は大幅に上がったようです。日本初の集材機は1920年に木曾の上松営林署に導入されたという記録がありますが、信州大学西駒演習林でも、標高2千数百メートルからの架線集材をしてきたと島崎先生にお聞きしたことがあります。主策の長さは3000メートルにも及んだとのことで、今でも登山道の脇に26ミリほどの径でしょうか、ワイヤの切れ端が埋もれているのを目にすることがあります。



受け口が「切られ与三」になっちゃった



皆さん注目、2年目の実力は如何に

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

リレー通信



「集中コースに参加して」
中田 尚利



7月末の集中コースに参加させていただきました。参加する前は、静岡から参加するのは自分くらいで、後は長野県内の方ばかりだと思っていました。きっと、県外ということでも浮いてしまうのだろつな、と思いつながら道中運転して長野へ向かいました。しかも、数日前にぎっくり腰をやってしまいました。研修耐えられるかな？コルセット持参での研修でした。しかし、いざ参加してみ

ば、新潟、島根の方、遠方の方もいらつしゃって驚きました。職種も林業従事者ばかりではなく、仕事は重機関連だけれど、家で時折薪を作る方、直接仕事として林業をするわけでは無いが、官公庁等で間接的に林業とかかわる方、じきにカナダへ林業留学する方もいました。

自分が参加した理由としては、今現在林業の仕事をしており、8月から現場で指導する立場になるため、技術を一から学びたいと思ったからです。林業に従事し、6年が経とうとしてますが、伐倒の際、受けを作る、追い口を入れる、木が倒ればそれでいい、という感じになっていました。基本的なことが理解できていいのか、後輩に教えるにあたって引出しがあるのか？自問自答して、やはりまだまだ未熟、そう考えたら即行動というわけで、ネットでも調べ、申し込みをしました。

た。

参加して思ったことは、理論的なことが理解されておらず、ただただ身体を動かしているだけの

作業になってしまっていた、ということでした。担当でついていたいた和泉先生に「はしつこいくらいに『何故？』を繰り返して、丁寧に説明していただき、理解しなからずすむことができました。理解の悪い生徒だったとは思いますが、時にはクリップボードを使用して、分かり易く教えていただきました。今まで多少は出来ていたと思っていた目立ても、イマイチで出来ていませんでした。自分は目立てローラーを多用しているのですが、これについても和泉先生から良い点、悪い点を教えていただき、目から鱗でした。

刃が小さくなれば、ローラー、ヤスリは一定の位置にしかあたらず、バックスロープになるという話もとても納得出来ました。ちなみに今では使用していません。枝払いについてもチェーンソーの腹を使って行うことが多かったのですが、先生曰く、背を使ったほうが、枝を払った際のゴミが自分にこないというところで、背を使うよう心掛けています。今までなんとなく行っていた、ひとつひとつの工程が、理屈が分かることになってどこを注意したら良いのが分かり、先生には大変感謝しております。そして今回一緒に参加したメンバーも気さくな方は

かりで、2日目の夜には男性メンバー全員(今思えば豊田さんも誘えば良かったな)で、伊那の街へ呑みに行きまらったローメンの店、『うしお』にも行ってみました。味は先生の言うとおり、好みの分かれる味との情報どおりでした。正直自分には合わないのかなと思いましたが、でも、みなと呑んで街を歩いたことはとても楽しい思い出になりました。一日目のパーベキュー、二日目の街探索と、夜も楽しい研修でした。研修中、一緒にグルーブになった自分を含め3人、みな良い人で良かったです。

自分の経験が一番多かったので、始めは差があるのかと思っていました。しかし蓋を開けてみれば、そんなことはなく、皆のポテンシャルの高さに驚かされました。挙げると、清水さんのセンスの良さ、呑み込みの速さにはびっくりしました。きっと同じ期間林業に従事していれば、軽々追い越されるのだろつなあと思いました。また、豊田さんの理解力にも関心しました。先生の言うことをすぐ理解してしまうので、やはり頭の良い方は違うのだなと感じました。

どこに気を付ければ良いのか、失敗したときにも何故そうだったのか理解できます。自分の知らないことがきつとまだ林業にはたくさんあって、そのことを探求しながら自分の技術を向上させていける林業って奥が深いし、とても素晴らしいことだなと思えました。今回の研修も、又参加して違う講師に当たれば、やる内容は一緒であつてもその人のやり方を学ぶことができると思えますので、出来れば参加したいなと思えます。

今現在仕事では支障木の伐採をしています。自分たちが木を切り、そのあとを建設業の方が作業道をつけていくというながれです。次第に、後輩と一緒に仕事をするものが多くなってきました。今回の研修で学んだことをしっかりと広めていきたいと思えます。そして、9月には県内で行われる伐木競技会に選手として出ることが決まりました。場所は富士宮市の『ふもとつばら』という、長瀬剛さんが野外ライブを行った場所です。良い結果が出せるよう頑張ってきたと思います。この記事を読んだ方、是非応援してくださいね。

す。記事になるとときには涼しくなっているんだろつな。みなさま体調管理しつつかりして、暑さを頑張つて乗り切りましょう！一緒に研修したみなさん、またいつか会える日を楽しみにしますよ！

リレー通信
「2016年集中コースを受講して」
清水 宏一 さん

2016年夏季集中コースでお世話になりました清水です。その節は島崎先生、早川先生、和泉先生および受講者の方々、大変お世話になりました。

私自身これといって山との関わりがそう多くあるわけではありませんが、山仕事に興味をもつきっかけから受講の感想、今後について簡単に綴ってみました。

受講のきっかけ

私は地元企業に勤める普通の会社員ですが、我が家は長野県によくある小さな

リンゴ農家で、毎年剪定枝が大量に出ます。これを冬の暖房用にと薪ストーブを入れたことがきっかけで、薪用とこちらの世界に入り込んでしまいました。地元の図書館でたまたま手にした鳥崎先生の著書にて、「個人の山主が自分でできる範囲で山仕事を行えるように」素人を教えて下さる、森林塾なるものがあることを知り今回の受講を決めました。

これまでの山林とのかかわり
薪ストーブに使う薪を作るために農作業に使っている、小さなチェーンソーと斧を持ち出して、薪作りを始めたのですが、とにかく切れないし手入れの仕方も分からない。そのうえ農作業で使うときには使用できないので、結局マイチェーンソーを購入することにな



り、かなりの出費。(これが割と使い勝手のよい機種だということの後で分かったの良かったですが)
薪用の原木集めとなると、我が家で所有しているわずかな山林から、不要木を伐倒したり、伐倒したままの状態の木を頂き、これを解体して現場から搬出しなければならぬ、といった場合にどうすれば安全に労力をかけずに作業が出来るのかが分からず、まともな道具もない状態で、ほぼ体力のみで作業を行っておりました。(今思うとわざわざ労力を掛けて危険な方法で行っていたことも。知らないって怖いですね。)

また、5年ほど前から父親が毎年参加している近所の出資者で共同管理している、山林の定期的な手入れに私も代理で参加するようになり、さらに山仕事が身近になってきました。手入れと

いって、毎年少しづつ場所を変えて間伐を行い、不要な雑木、下草を刈っていただくのですが、一部の経験者が選木(伐倒、その他の人たちは枝打ちや下草刈りをし、一日で

作業したら終了、倒した木は放置という内容ですので、あまりきつい仕事ではありませんが。昔は間伐木も建材や薪用として高値で売れたそうですが、現在では搬出する労力に見合わないため放置しているとのことで非常に勿体ないですね。
私がこれまでに経験した山仕事というのは、こつこつた作業がほとんどで、選木、伐倒には経験と勘がものをいう、なんとも職人的な世界だなという印象を抱いておりました。
こういった作業を通じて知ったのは現在では山林を所有していても全く儲からないが、所有しているからにはいつか来るであろう売るときのために定期的に手入れをしていかなければならない現実でした。

森林塾にて

いざ森林塾に参加してみると、地域活性化のために日々尽力されている方々や林業関係者(本職じゃない)、海外留学のために日本の林業を勉強されているなど、どの方も大きなビジョンをお持ちの方々がばかりで、私のような小さな世界での問題解決など恥ずかしい限りでしたが、こつこつた方々との交流もあり非常に有意義な3日

間を過ごすことが出来ました。
講義では、木の密度を計算し間伐する割合を数字で出す事を学び、職人の勘で全てを決めるものではないことを知りました。それでも経験、勘が非常に大きなウエイトを占めることも確かなようです。

素人の山仕事とはとにかく安全第一、やってはいけない作業は山ほどあるんですね。掛かり木の処理というのはあの禁止作業以外にどうやるのか知りませんでした。
伐倒の際は受け口の作り方で倒れる方向をかなりの確率でコントロール出来るんですね。これまでは受け口の厚みや方向なんて、木の重心位置や傾斜の方が支配的であり、それほど気にすべきことでは無いと思っていました。

木を引っ張るにしても、中学か何かの授業で習った、滑車の理屈そのままで大きな力を出すことができ、倒した方向に安全に倒すことが出来るものですね。
チェーンソーも結構な頻度で分解、清掃等のメンテナンスが必要というのもし知らずに使っていました。刃研ぎもネットで調べた情報で適当に行っていました。鳥崎先生は

非常に奥が深そうです。これからは刃研ぎ治具を使わずにヤスリのみでいきます！
こういったことはその気になれば書籍やインターネットで容易に知識として入手可能なものだと思いますが、これを実際に現場で教えていただきながら体験できるという機会はなかなか得られるものではないと思います。良い先生に教えていただきたくと吸収が早いです。
その後の私
あの非日常的な3日間が過ぎて再び通常の会社員としての日常を送っておりませんが、この秋冬には塾で教えていただいた知識、装備をもつて所有林の整備に赴くため、必要な道具や書籍を物色する時間が増えました。不明となつている山林の境界についても役所へ行って調べておかないと。
日本の山林に関してさまざまな問題を抱えている現在、それを何とかしようと懸命に努力されている方々は遠く及びませんが、私は私なりに今の自分の技術で出来ることを地道にやっています。

この夏、森林塾に参加したことで知識、経験が豊富に得られましたこと、鳥崎先生はじめ講師の皆さま、受講者の皆さまに深く感謝申し上げます。
おわりに
さんま、さんま
さんま苦いか塩っぱいか
そが上に熱き涙をしたら
らせて
さんまを食ふはいつこの
里のならひぞや
庶民の秋の味覚として、1960年代から70年代には太平洋のサンマ漁は日本の独壇場で、年間60万トン程度の水揚げがあったそうですが、この世紀に入り台湾やロシアなどとの競争も激しくなり、このところは20万トン程度です。今年是不漁でかなり高め。
人恋しくてメランコリーになるのもいいですが、サンマはやはり、脂の乗ったところを大根おろしで食べたいですね。信濃毎日新聞によると伊那市の産直市場グリーンファームにはマツタケが入荷した模様。小林会長曰く「秋だな!!」

投稿大歓迎。ご意見、ご質問は事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

